

プレス、板金、溶接による金属加工メーカー。主力のプレス加工では厚板からフックやクサビなどの仮設足場部品を生産。年々厳しくなる顧客ニーズに応えるため、常に市場の先を見つつ、計画的な設備投資に努めている。

古角工業株式会社

こたえる、かなえる

古角工業(株)の創業は1948年。先代(正中輝明現社長の叔父)の古角兼一氏が古角製作所として肥後守(ひごのかみ)ナイフや園芸用刃物を製造販売したことに始まる。先代は妥協を許さない職人根性で、顧客のために「より良質で使い勝手の良いもの」をつくることに精進した。以来、半世紀以上に渡りこの信念を受け継ぎ、今日でも顧客に要求に「こたえる、かなえる」をモットーとして社業に励んでいる。

刃物から仮設足場部品へ

刃物事業は1980年代まで続いたが、しだいに中国など海外メーカーとのコスト競争に巻き込まれるようになり、1985年をもって同事業を終了し、その後は建設現場などで使用する仮設足場部品の加工事業に軸

足を移した。もともと、当初は苦勞した。「刃物製造のときからプレス機は使用してきましたが、同じ金属加工でも刃物と足場部品とは大違いだったからです」と正中社長は振り返る。

刃物は金属板材(薄板)からプレスで抜いた後、研磨や焼入れなどの後工程で形状を調整しながら仕上げるので、プレス単独での寸法精度はさほど気にしなくてすむ。しかし足場部品は、二次加工はするものの基本的にはプレスによる一発加工であり、しかも締結する相手(パイプや足場など)があるため、寸法出しがきわめて重要になる。まして顧客の多くは大手建設資材メーカーなのでなおさらである。特に公差に慣れるまでに時間がかかり、業態変換には約3年を費やしたという。しかし、一度コツを掴むと持ち前の粘り強さを発揮し、大きな成長をとげた。



▲ヘビースタンピングプレス S1-5000E(500トン)